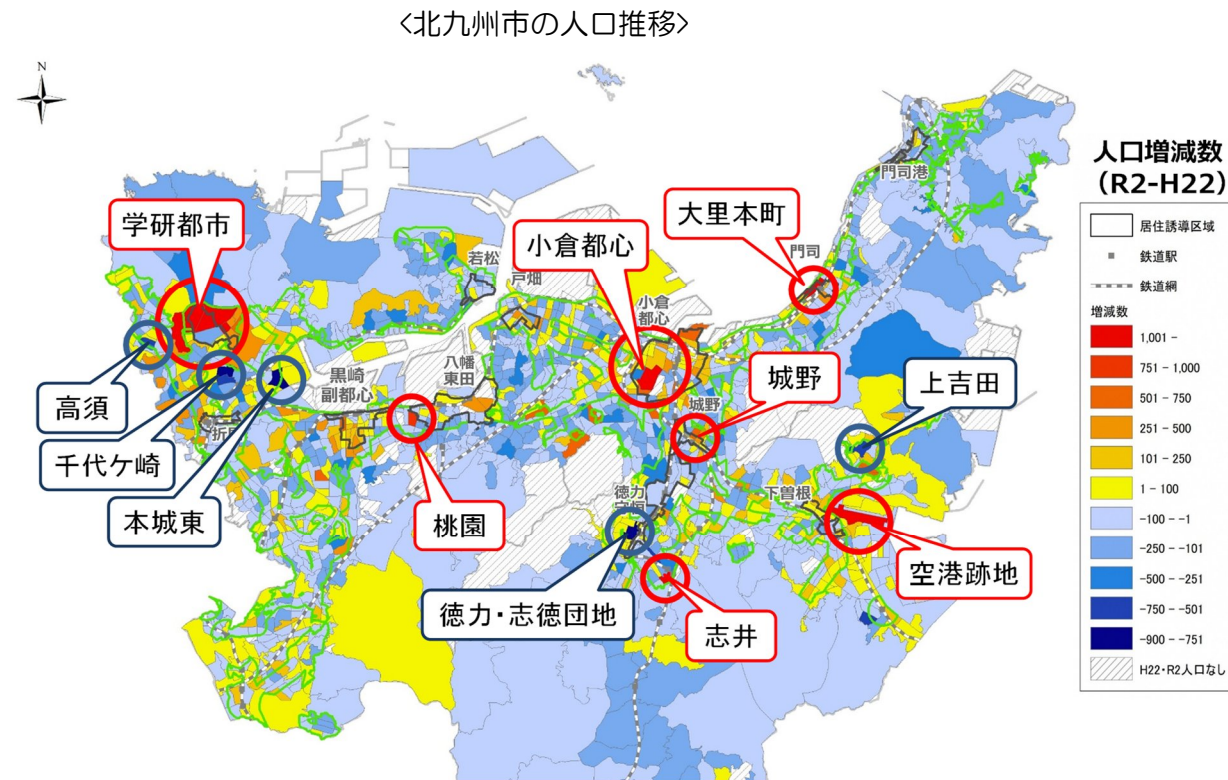


7 これまでの取り組み状況

(1) 居住誘導状況

人口増加エリアの小倉都心部では、都市機能の更新、良好な都市環境が整備され、民間のマンション開発も活発です。また、小倉南区では、交通利便性の高いモノレール駅に隣接して民間マンションが開発されています。区画整理事業を実施した学研、大里本町、城野地区では人口が大幅に増加しています。

一方、八幡西区、小倉南区の一部地域では、S40～50年代に整備された公営団地が多く立地し、高齢化の進行も市の平均に比べ高い傾向にあり、人口が大きく減少しています。



(2) 人口増減 (H22, R2比較)

市全体の人口が減少する中でも、都市機能誘導区域の人口は約1.6万人増加(+14.2%)しています。そのため、居住誘導区域内の人口は、約1千人減少(▲0.2%)と、市全体の減少率(▲3.9%)と比較すると低く抑えられていますが、都市機能誘導区域を除く居住誘導区域内では、約1.7万人減少(▲2.9%)となっています。

こうした状況から、居住誘導区域では、公共交通や生活利便施設を維持するため、より一層の居住誘導を図っていく必要があります。

	H22	R2	人口比率	増減数	増減率
市街化区域	938,196	902,930	96%	▲35,266	▲3.8%
居住誘導区域内	715,933	714,799	76%	▲1,133	▲0.2%
うち都市機能誘導区域内	114,565	130,813	14%	▲16,248	▲14.2%
うち都市機能誘導区域を除く居住誘導区域内	601,368	583,986	62%	▲17,382	▲2.9%
居住誘導区域外	222,263	188,131	20%	▲34,133	▲15.4%
市街化調整区域	38,650	36,099	4%	▲2,551	▲6.6%
合計	976,846	939,029	100%	▲37,817	▲3.9%

出典: R2 国勢調査

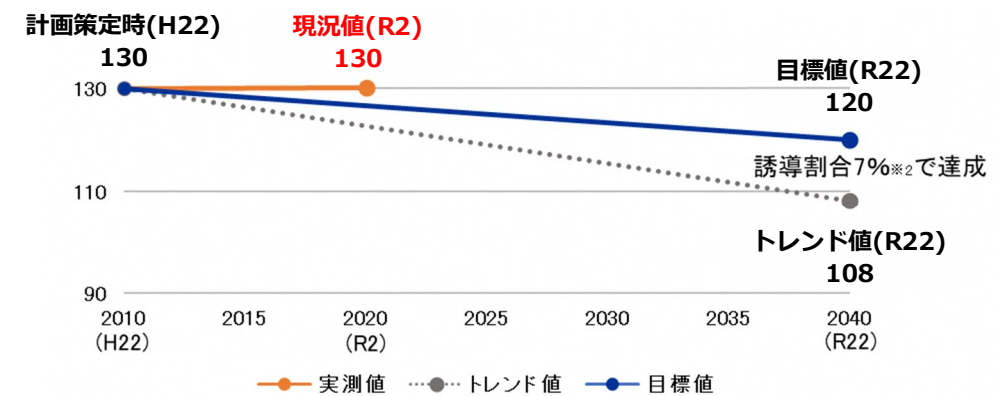
(3) 現状の達成状況

①将来にわたり便利で暮らしやすい「街なか」の形成(居住誘導区域における人口密度の推移)

評価指標	数値目標			
	(計画策定時)	(現況値)	※1トレンド値	(目標値)
将来にわたり便利で暮らしやすい「街なか」の形成	居住誘導区域における人口密度			
	平成22年	令和2年	令和22年	
	130人/ha (72万人)	130人/ha (71万人)	108人/ha (60万人)	120人/ha (67万人)
市全体	(97万人)	(93万人)	(78万人)	

※1 トrend値: 現状の動向のまま進行した場合。

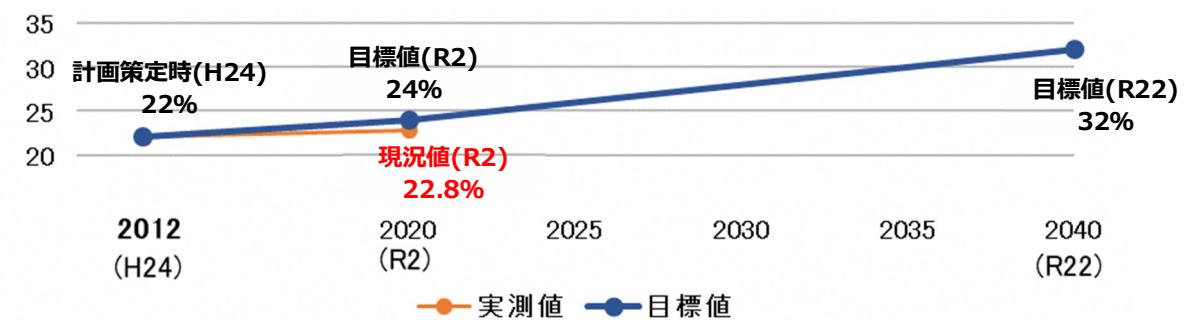
※2 誘導割合7%: 5年毎の居住誘導区域外から内への転入者の数の居住誘導区域外の人口に対する割合。



現在、居住誘導区域内の人口密度は130人/haであり、横ばいに推移しています。平成22年度の前回値から横ばいで推移し、目標線・トレンド線を上回っています。

②誰もが安心して移動できるまちづくりの実現(公共交通利用率)

評価指標	数値目標			
	(計画策定時)	(現況値)	(目標値)	
誰もが安心して移動できるまちの実現	公共交通機関(JR、モノレール、筑豊電鉄、バス)の利用者割合			
	平成24年	令和2年	令和2年	令和22年
	22%	22.8%	24%	32%



平成29年実施のパーソントリップ調査の結果では22.8%であり、目標線より低い状態にはあるものの、計画策定時(平成24年)22%より上昇傾向となっています。